

あうる



♪ VOICE OF THE FOREST

📖 本と出会う秋



P.1-2 ブックガイド「本を読むための本」

P.3-4 私の本棚

P.5 「ビブリオバトル」って知ってる？

P.6 “OWL” INFORMATION

P.7 めでいもりだより



特集 | ブックガイド

本を読むための本



たくさんの本が氾濫する現代、本を読もうと思いついたけれど、どんな本があるか、どんな読み方をすればいいか等、迷っていませんか？本を読むために書かれた本を紹介します！



第1ステージ 入門編

まずはこんな本はいかがでしょうか？

又吉直樹 『第2図書館補佐』 幻冬舎よしもと文庫

生活の傍らに常に本という存在があるという、お笑い界きっての本読みピース又吉が、個人的なエッセーという形で、大好きな本を紹介している。紹介自体は短い、著者の摩訶不思議・抱腹絶倒な体験から導かれる本に興味がわいてくる。

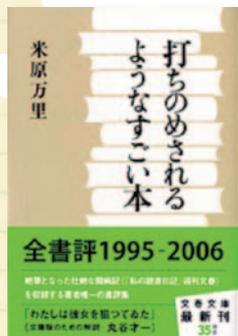


斎藤美奈子 『本の本』 ちくま文庫

書評と読書エッセー。小説・随筆、読書論・読書ガイド、人文科学(文学論・文学史・日本語論・表現論)、社会科学(社会時評・社会学・ジェンダー論・近現代史)などの分野をカバー。著者は「本じゃ人生変わりません」といった余計な一言をつけ加えたがる、斜に構えた活字中毒。しかし権威主義にとられない、明けっぴろげな「直球」実感批評は爽快。

米原万里 『打ちのめされるようなすごい本』 文春文庫

ロシア語通訳の達人であると同時にエッセイスト、作家でもあった著者の書評集。前半は読書日記、後半は2006年までの全書評を収める。圧倒されるのは、ジャンルの垣根を飛び越えていく、著者のあくなき知的好奇心。カバーする範囲は、歴史・地理から政治・経済、生物、言語、建築、スポーツにまで及ぶ。しかも読書ガイドは、現代日本に関する「時評」にまで導いていく。



立花隆・佐藤優 『ぼくらの頭脳の鍛え方 必読の教養書400冊』 文藝春秋新書

現代という時代にマッチした教養書ガイド。二人の著者に共通しているのは、文芸に傾きがちな「読書人」とはちがひ、思想・哲学・宗教に詳しいばかりか、社会科学や数学・自然科学の方面にも明るいことである。そのため、推奨図書は驚くほど広範多岐にわたる。読書論、教養論、教育論をめぐる二人の知的対話も啓発的。「知」の世界への『百科全書』派的ナビゲーターといってよい。



本探しの情報源

- “ダ・ヴィンチ”
本についての総合誌。新刊や話題の本の情報満載。
- 岩波文庫編集部編 『岩波文庫解説総目録 1927～2006』 岩波書店
古今東西の定評ある書物の内容が簡潔に要約されている。いわば世界名著辞典。今年の目録はwebからダウンロード <http://www.iwanami.co.jp/hensyu/bun/>

新聞、TV、インターネットで書評をチェック!



- 高知新聞 読書欄 毎週日曜日に掲載
- 100分de名著
NHK Eテレ 毎週水曜日 23:00～23:25
- Book asahi com <http://book.asahi.com/>
- 本よみうり堂(読売新聞)
<http://www.yomiuri.co.jp/book/>
- 書評空間 <http://booklog.kinokuniya.co.jp/>

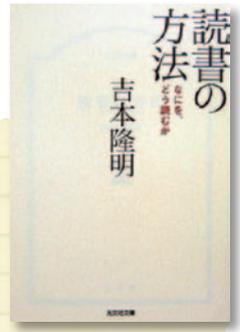
中級編

第2ステージ

いい本とダメな本とを見きわめる目を養おう

吉本隆明 『読書の方法 なにを、どう読むか』 光文社文庫

詩人にして評論家、思想家でもある著者による読書エッセー集成。読書論、読書遍歴、読書案内の三部構成。インタビューや対談も織りこまれている。最も深い影響を受けたのはフェアブル『昆虫記』、『新約聖書』、マルクス『資本論』の三冊だということに、思想家としての著者の面目がはっきりあらわれている。いろいろな観点からのテーマ別ブックリストが個性的。



立花隆 『ぼくの血となり肉となった500冊

そして血にも肉にもならなかった100冊』 文藝春秋

読書体験・読書論および読書案内。前半は、20代から30代にかけて大きな影響を受けた書物について語ったあと、人生のいろいろな時期で出会った面白い本を取り上げる。後半は、新刊のテーマ別ブックガイドを意図した読書日記。著者の関心は、政治、経済、サイエンス、テクノロジー、哲学、思想、芸術と多方面に及ぶが、文学関係の本はあげられていない。ともあれ、この人の知的探求心には脱帽。



上級編

第3ステージ

「本の本」の奥行きを知るとともに、批評の「技」の冴えにふれてみよう

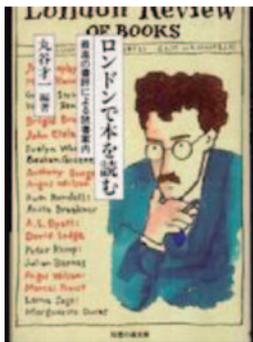
林達夫著 鶴見俊輔監修 『林 達夫セレクション1 反語的精神』 平凡社ライブラリー

各種文献を渉猟したうえでの、ヨーロッパ文化に関する「史的研究」であると同時に「案内」。「文化」には、文学・美術・思想・哲学・宗教ばかりでなく、政治・経済も入る。文体の端正と批評の厳正には驚倒する。戦前戦中戦後を貫く著者の批判精神は、その透徹した予見能力によって、「戦後思想」だけでなく「日本の現在」を撃つ力を今なお有している。中公文庫、岩波文庫にも選集がある。



丸谷オ一編著 『ロンドンで本を読む 最高の書評による読書案内』 光文社 知恵の森文庫

現代イギリスの書評から秀作を選んだもの。取り上げられる本は、『ファニー・ヒル』、『ダイアナ妃の真実』、『源氏物語』、マドンナ写真集『SEX』、『失われた時を求めて』、『ユリシイズ』、『ライ麦畑でつかまえて』、『ホーキング、宇宙を語る』など、バラエティに富む。遠藤周作、北杜夫、村上春樹などの作品論も入っている。英国における書評ジャーナリズムの水準の高さがうかがえる。



もっと
読みたい
あなたには...

小説トリッパー編

『活字マニアのための500冊』 朝日文庫

恋愛、スポーツ、旅、温泉、食べもの、古い、管理社会、現代アメリカ、差別など、14のテーマごとに傑作・名作を選んだブックガイド。

小説トリッパー編

『この文庫が好き! ジャンル別1300冊』 朝日文芸文庫

本好きのどんな好みにも対応できる文庫本ガイド。ミステリー、ホラー、SF、歴史・時代小説といったジャンルの本ばかりでなく、手紙、音楽、映画、心理などに関する本も紹介されている。

表紙の人



中央館で活躍中の学生スタッフお二人に協力してもらいました。



(写真左から)

藤池 雄一郎さん
(人文学部国際社会
コミュニケーション学科)

下田 総一郎さん
(人文学部社会経済学科)

みなさんこんにちは!!メティ森夜間スタッフの下田&藤池です!何か館内利用に関して困ったことがあったら力になるのでぜひ僕たちに声をかけてください。よろしくお祈りします!

私の本棚

My bookshelf



偶然に読んだ一冊の本が人生を変えることもあります。以前この「あうる」で学生みなさんに読書スタイルやお薦めの本についてのインタビューをしたことがありましたが、じゃあ「大学の先生ってどんな本を読んできたんだろう？」という疑問が浮かびました。そこで先生方のお忙しい時間を頂いて、読書についての思い出や心に残る1冊、読書へのこだわり、お薦めの読書法を伺ってきました。

Q1

先生の研究やお仕事について教えてください。



Q2

先生の読書についての思い出と今までで一番影響を受けた本を教えてください。

Q3

先生の読書へのこだわり、またお薦めの読書法があれば教えてください。



人文学部
武藤 整司先生

A1 大学、大学院時代は、西洋近世哲学史、とくにデカルトの哲学を勉強していました。高知大学に赴任してからは、主に倫理学を担当することになりましたので、近・現代の社会問題に対する関心を高めています。具体的には、戦後の日本人の倫理観の変遷や居場所の問題などについて思索しています。併せて、生涯学習の意義を摸索しております。

A2 子どもの頃から、本(活字)好きです。小学校の頃は、名作の子ども向けにリライトされたものをよく読んでいました。中・高では、文庫や新書の類(とくに、詩や小説を好んでいました)を中心に読んでいた覚えがあります。大学時代は、専攻だった哲学関係の本はもちろんですが、文字通りさまざまなテーマの本を「濫読」していました。影響を受けた本としては、どちらかというと脱俗的なもの(『老子』や『徒然草』など)が多かったようです。学生へのお薦めの本はたくさんありますが、たとえば、漱石の初期三部作である『三四郎』、『それから』、『門』は、若い頃に読むと感じるものがあると思います。あと、モーパッサンの『脂肪の塊』、ドストエフスキーの『罪と罰』、ヘルマン・ヘッセの『車輪の下』もいいと思います。古典と言われるものも、ぜひ読んでみてほしいですね。ここ10年ほどで一番ガツンときた本は、辺見庸の『もの食う人びと』かな。感銘を受けた本をどうしても1冊を、ということで挙げる

とすれば、岡倉天心の『茶の本(THE BOOK OF TEA, 1906)』かな。この本には人間が生きていく上での機微というか、心豊かに生きていく方法、日本の良さがあると思う。原文は英語で書かれていますので、英語の勉強にもなるかもしれません。

A3 読書への第一歩は取りあえず片端から読むことです。ジャンルは決めずに何でも読みます。スローガンとしては、「精読(せいどく)」、「濫読(らんどく)」、「積読(つんどく)」。1回読んでこれと思うものはもう一度精読します。あと積読も大事。一生の間に読むだろうと思う本は取りあえず買っておきます。学生みなさんには自分自身に枠を設けないで本を読んでほしいと思います。何がここに響くかは人によって違います。読んで「あれ!？」と思う作品に出会えたら、またその本からネットワークを広げていくといい。文系のみなさんは理系のブルーバックスなんかもときどき読むといいと思いますよ。また読んだ本はメモっておくいいと思います。読書は自分の世界を広げてくれる旅のようなものです。本との出会いによって、自分の世界が広がり、人とのコミュニケーションも広がる。「出会いを求めて、読書の旅に出る」という感じかな。私のブログ(SOULS)に、お薦めする本(思想、文学)や映画(邦画限定)の100選を載せています。興味のある方はぜひ覗いてください。
<http://souls.cc.kochi-u.ac.jp/?&f=40>

茶の本



115
岩波文庫

A1 生物学です。ミドリゾウリムシとクロレラの細胞内共生成立機構について研究しています。

A2 大学で研究室へ入るまでは一般的な小説などを読むのが主でした。「細胞内共生」という現象は高校で習うのですが、そのときから興味をもっていました。地元の大学にちょうどその研究をされている先生がいらっしゃると聞いたので、迷わず受験して4年生からその先生の研究室に入りました。それからは、研究についての学術雑誌の論文を図書館にこもって読みあさりしました。その頃に指導教員から薦められて読んだ本が今回紹介する本です。石川統先生の『細胞内共生』です。この本には研究の楽しさや苦労話も書かれていて、私の研究スタイルを決定づけたと言ってもいいと思います。当時、私は最先端の研究にあこがれて研究室に入ったものの、実際行うのは毎日、顕微鏡を覗く地味な研究ばかりで劣等感を感じていました。

しかし、この本のあとがきに研究を漁師の仕事にたとえて数百人の男たちが南氷洋でクジラを追う仕事も1人小舟を漕ぎ出して魚を取る漁師も真剣さに変わりないというような文章があり、そこに感銘を受けたこと覚えています。ここからは迷うことなく地道な研究を10年間続けてきています。この本との出会いで研究者の道へ進むことになったような気がします。当時の指導教員は石川先生の共同研究者で、後に来てお話しする機会もありました。現在、石川先生のお弟子さんと共同研究をしていて、今やっとクジラを狙うような研究に着手し始めたところです。

A3 実は私は本を読むのが本場に遅くて一行一行納得するまで読むタイプで、速読法やこれといった読書法は身につけていないんです。最近の本屋に行って手にとって選ぶということもほとんどないのですが、人に薦められる本を読むとやはりそれはいいものが多いと感じています。



理学部
児玉 有紀先生





教育学部
玉木 尚之先生



A1 中国哲学です。中国の古代思想、古代の音楽の捉え方について研究しています。

A2 学生の時によく読んだ本は日本文学では夏目漱石、安部公房、大江健三郎、井上ひさしなどですね。詩も好きで北原白秋、中原中也、谷川俊太郎などを読みました。外国文学ではヘッセ、あとトルストイでしょうか。大学では中国文学を専攻しました。高校の時の漢文の授業が好きで詩を研究したかった。でも迷って、音楽に転向しようかと考えてふらふらしていた時期があって、その頃は吉田秀和や武満徹を読んでいた。結局中国文学に戻って中国古代の音楽観について研究することになるわけですが、その時の大きな出会いとしては、白川静『詩経』です。そこから白川静の本を読みすすめていきました。大学院に入ってから友人の影響もあり、あらゆるジャンルの本を読みました。中でも感銘を受けた本が大室幹雄『劇場都市』です。これまでオーソドックスな文献を読んで研究を進めてきていたのですが、こんな見方があったのかと衝撃をうけました。中

国古代の都市文明を社会学や人類学などいろいろな切り口で捉えていて物語としても読める。研究書なのだが文学なんです。そこから大室先生に憧れて、先生の大学の授業に潜り込んで講義を聞いたこともありました(笑)。

A3 こだわりは特にはないですね。興味をもったものがあれば、掘り下げ、広げていきます。学生には3方面から本を選んで読んでもらいたいですね。まず、「文学」。これは読みやすい好きな作家を見つけて空いた時間に読んでいくといいと思います。次に「研究」関連。卒論に向けてまずは新書などテーマを広くもって読み進めていき、面白そうなものを見つけてしっかりした内容の研究書を1つは読んでもらいたいです。そして「社会的問題」のもの。これも今は新書がたくさんあるので興味をもって読んでほしい。研究にしても多くの視点からとらえないと広がっていかない。ある程度の量を読まないで面白さが出てこないですね。教養も必要です。

A1 保健管理センター医学部分室で、学生の心の相談に対応しているカウンセラーで精神科医です。

A2 小さい頃から本は大好きで読み出すと没頭してしまい、母に食事に呼ばれるのが嫌でなりません。高校時代には、三島由紀夫の『仮面の告白』が愛読書で、この本は自分のことを書いていると思いついていたのですが、後に同性愛がテーマということに気づき愕然とした覚えがあります(笑)。大学時代は絵を描いていたこともあり、坂崎乙郎の美術評論をよく読みました。また、漫画ですが、萩尾望都の『ポーの一族』には衝撃を受けました。キューブラー・ロス『死ぬ瞬間』、シュビング『精神病者の魂への道』、ユング『人間と象徴』などの本との出会いが、今の仕事に結びついていると思います。絵が好きで表現病理に興味を持ったこと、精神障害者のボランティアに携わったことなどから自然に精神科に興味を持つようになって、目に見えない苦しみを持った人に寄り添いたいと思うようになりました。

私の1冊は、梨木香歩『西の魔女が死んだ』です。臨床心理で影響を大きく受けた河合雄雄先生の講演の中で紹介されて手に取った本です。児童文学なのですが、読んでみて本当に自分の心にぴったりの本でした。どこを読んでも、何度読んでも涙がでます。この本の重要なテーマは「死の恐怖」と祖母との交流を通してそれを乗り越えて不登校の少女が成長するお話ですが、現代の人たちに大事なテーマだと思います。今の学生は哲学の本を読んだりすることは少ないと思いますが、実は自分でも気づかないうちにそういう深いところで悩んでいて、現実と向き合うのが大変になっている人も多く感じています。そういった人たちにも読んでもらいたい本です。

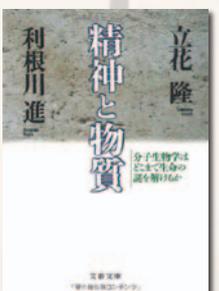
A3 大学生のうちは時間もあるのでぜひ本を読んでもらいたいと思います。直感的に選んでいろいろと読んでみるといいと思いますよ。私は1冊読んでいいと思ったら、その作家の作品を追いかけて読みます。そして直感的にいいと思った本は、自分自身を知る手がかりだったり、自分自身の核を支える言葉に出会えることでしょ。



医学部
澁谷 恵子先生



農学部
松川 和嗣先生



A1 専門は畜産、特に繁殖です。土佐赤牛の数が減っているので、遺伝的多様性を維持しようとしています。それに付随して肉質の改良など牛についての全般を研究しています。

A2 実は僕ももともとは、ほとんど本を読まなかったんです。大学時代も遊んでいました。大学は信州大学繊維学部で、蚕とかを勉強していたのですが、大学3年生の時にたまたま赴任してきた先生が家畜繁殖学を専門になさっている先生で、動物好きだったこともあり、哺乳動物の研究に転向しました。本を読みだしたのはそこからです。それまでに素地がなかったので、洋書を中心に研究についての本を片っ端から読んで勉強しました。

僕が一番影響を受けたと思う本は『精神と物質』という本です。立花隆の利根川進へのインタビューの本です。ポストクで3年間イタリアへ行っていたのですが、この時日本から持って行った3冊の本のうちの1冊です。日本語の本が他になかった(笑)こともあり、この本は何十回も読み返しました。イタリ

アに行ってこれまでの日本の研究スタイルとの違いに戸惑っていて、この本から海外の研究スタイルを参考にしました。私が日本でこれまで行ってきた研究はテクニックにとらわれ重箱の隅をつつくようなものでしたが、海外での研究スタイルは先を見据えた研究で「サイエンス」をするものであることを身をもって知りました。

A3 教員になって読書スタイルが変わりました。人に教えるために読むので、より広く、深く読むようになりました。また書いてあることは鵜呑みにせず裏付けをとり、ある意味疑いながら読んでいます。一方、小説などもよく読むのですが、そういった息抜きのための読書は文句なくその内容に浸って楽しむようにしています。学生のみなさんには、本から得た知識を後で披露するつもりで、飲み会の席でもいいので(笑)、読むことをお勧めします。そうすれば、自然と広く深く読むようになるはず

みんなで
本の楽しさを
共有しよう



「ビブリオバトル」 って知ってる？

「ビブリオバトル」は、みんなで集まって5分で本を紹介、そして、読みたくなった本(=チャンプ本)を投票で決定する、スポーツのような書評会です。

知的書評合戦 ビブリオバトル

ビブリオバトルってなに？

谷口忠大先生(立命館大学准教授)「イ本に出会える仕組み自体を勉強会の中に取り込めないだろうか?」との思いがきっかけに生み出された読書ゲーム。大学生の読書ってテキストを読むだけではないですよね?ビブリオバトルで紹介された本のなかから読みたい本を読めば良い!紹介する本は、基本的に何でも良い!どんな本でも良い!みんなが読みたくなるような本を紹介して、それが実際、読まれて、同じ本で話ができたりしたら、知的な遊びだと思いませんか?そしてさらに、本を通して、人が見えてきたり、プレゼンテーションスキルも向上するなんていう思わぬ副産物も!

ビブリオバトルってどうやるの!?

- ①発表者(バトラー)が読んで面白いと思った本を順番に一人5分間で紹介する
 - ②それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2~3分行う
 - ③全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか?」を基準とした投票を参加者全員で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする
- ☆まずは手近な本でやってみよう!



7月25日(水)にメディアの森2Fブラウジングコーナーで 「知的書評合戦ビブリオバトルお披露目練習会」が開催されました!



まずは主催者 人文学部中道先生からビブリオバトルについて説明



プレゼンタイムは5分間。制限時間内で本の面白さを伝えます



ディスカッションタイム。プレゼンを聞いた参加者から質問があります。このやり取りもまた楽しい

今回の発表者のみなさん。各自の表現で本の面白さを伝えます



最後に発表者が並んでもう一度本を紹介。この後投票へ



今回ビブリオバトル初体験の図書館職員Tでしたが、非常に楽しい会でした。

それぞれの書評を聞くだけでなくチャンプ本を決めるというところがミソでしょうか?

準備は簡単!それぞれ本を1冊持ち寄るだけ。みなさんも本からはじまるコミュニケーションを楽しんでみてはいかがでしょうか?



今回のチャンプ本です。
なんと同票で3冊が
チャンプ本になりました。



ビブリオバトル今後の予定

年に一度の大学生・大学院生の祭典「ビブリオバトル首都決戦2012」(10月21日)に向けての地区決勝が高知大学で行われます。ぜひこの機会にビブリオバトルの世界を体感してください。観戦だけでも知的世界が広がりますよ!

10月13日(土)地区決勝

高知大学朝倉キャンパス メディアの森
14時開始(17時終了予定)

詳しくは⇒<http://shuto12.bibliobattle.jp/>



ブック
ハンティング
参加者募集!

ブックハンティングのお知らせ

ブックハンティングは図書館に置いてほしい本をあなた自身が書店で選ぶツアーです。今年も各館で、ブックハンティングを実施します。自分の興味のある本を図書館に入れるチャンスです。ぜひご参加ください。

○参加希望の方は、各館窓口にお問い合わせください。



中央館

- 日時場所: 10月10日(水) 13:30~15:00 金高堂朝倉ブックセンター
10月17日(水) 12:30~14:00 高知大学生協
- 募集人数: 各15名程度(本学の学部学生・院生対象)

医学部分館

- 日時場所: 10月24日(水) 17:30~18:30 金高堂書店 高知大学医学部店
- 募集人数: 15名程度(本学の学部学生・院生対象)

農学部分館

- 日時場所: 10月23日(火) 10:00~11:00 高知大学生協 農学部ショップ
- 募集人数: 20名程度(本学の学部学生・院生対象)

芸術の秋、メディアの森(中央館)に彫刻作品が登場!

メディアの森を訪れると、1階ロビーに展示された阿部先生の作品が来館者を迎えます。先生にお話を伺いました。

『頭の上に猫を掲げたポーズの女性を、塑造という技法で表現しています。塑造とは、粘土で形を作る技法のことです。猫のモデルは、私が本学に赴任してから家で飼いだめた雑種の雄猫です。子猫の時に朝倉キャンパスをよちよち歩いているのを持ち帰り、以来ずっと家で部屋飼ひしています。

さて、私がお手本としている彫刻家に、イタリア・ルネサンスのミケランジェロという有名な作家がいます。ミケランジェロの作品のひとつに「ジュリアーノ・デ・メディチの墓碑」*という彫刻群がありまして、そこに昼と夜を象徴した人物彫刻が構成されています。「昼」と題された彫刻は屈強な男性像、「夜」のそれは優美な女性像として表現されています。イタリア語には、男性・女性名詞があることから、ミケランジェロの彫像の性別に言語が反映されているという説があります。

猫はイタリア語でgatto、つまり男性名詞です。私の表現する彫刻に猫と女性が組み合わされているのは、両性の相互関係をひとつの作品に封じ込めることを目的としています。先に挙げたミケランジェロの名作とは比べものになりませんが、芸術にはそういった大それた目標を持つことも大切なのかなと最近思います。』

メディアの森で読書の秋、そして芸術の秋を楽しんでください。

*「ジュリアーノ・デ・メディチの墓碑」: メディチ家礼拝堂所蔵(フィレンツェ)



第42回日彫展 会員出品作品(上野・東京都美術館)

ライアーガール〜下弦の月

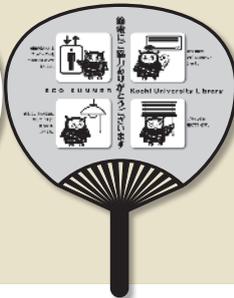
阿部鉄太郎(教育学部講師)制作

素材:強化プラスチック
高さ:220cm

節電アピールうちわを作製しました

総合情報センター(図書館)の夏場の節電にご協力いただきありがとうございます。ありがとうございました。

節電へのご協力をお願いする「あうるくんうちわ」を作製し配付したところ、好評で多くの方にご利用いただきました。





◆卒論特別貸出について (中央館・農学部分館)

卒論作成のための特別貸出として、通常貸出(5冊2週間)とは別に長期貸出(5冊60日間)ができます。論文提出学年生(4年、院2年)が対象です。中央館・農学部分館の各窓口にある申請書に必要事項を記入の上、論文指導教員に承認印をもらってから申請してください。



◆「図書リユースセール」 のお知らせ

11月2日(金)～3日(土)ホームカミングデー・黒潮祭にあわせ、図書館で不用になった図書や雑誌の有効利用のため、リユースセールを行います。思わぬ掘り出し物にめぐりあえるかも?

メディアの森
(中央館)内
で開催!

◆「引用文献データベース Scivers Scopus講習会」の お知らせ

これから英文論文を利用することを考えている方を主な対象として、エルゼビア社の引用文献データベースSciverse Scopusの講習会を開催します。講師は出版元からの専門のトレーナーです。既にScopusや電子ジャーナルを利用しているけれど、もっと便利に活用したい!という方もぜひご参加ください。

詳細は図書館HPや掲示でお知らせします。

日程

12月4日(火)

物部キャンパス(農学部分館情報コンセントブラウズ室)
岡豊キャンパス(看護学科棟2F情報処理実習室)

12月5日(水)

朝倉キャンパス(メディアの森2F教育端末室)

※お申込み・お問い合わせは各総合情報センター
(図書館)下記窓口までお願いします。

- 中央館(内線8163) kg07@kochi-u.ac.jp
- 医学部分館(内線22490) kg05@kochi-u.ac.jp
- 農学部分館(内線5117) kg06@kochi-u.ac.jp

◆「日経BP記事検索サービス」 のトライアルについて

「日経BP記事検索サービス」は「日経ビジネス」「日経パソコン」など、日経BP社が発行している幅広い分野の専門雑誌約50誌の記事がオンライン上で閲覧できます。この機会にぜひご利用ください。

トライアル期間 10月10日(水)～12月10日(月)

◆秋の図書館ガイダンスについて

10月に、中央館で図書館ガイダンスを予定しています。「CiNii」等を利用した雑誌論文検索から、検索した論文の入手方法などを職員がわかりやすくご案内します。開催日程は図書館HPや掲示でお知らせします。

オンデマンドガイダンス

ゼミやグループ等でガイダンスをご希望の場合は日程や内容もご希望に合わせたガイダンスを行います。随時受け付けていますので、ぜひご利用ください。

ガイダンスのお問い合わせ

- 中央館(内線8163) kg07@kochi-u.ac.jp
- 医学部分館(内線22490) kg05@kochi-u.ac.jp
- 農学部分館(内線5117) kg06@kochi-u.ac.jp

編集後記

今号で紹介された本の中で、読みたくなったものはありましたか?

良い本・好みの本・他人に紹介したくなる本を見つけるには、まず読むことです。灯火親しむの候、読書の扉をノックしてみませんか?

ぜひ、本を読むことで広がる世界を感じてください。

私たちスタッフは、皆さんと本の出会いを応援しています。



あうる No.8 (2012年10月発行)

[編集・発行]

高知大学総合情報センター(図書館)

〒780-8520 高知市曙町2-5-1

Tel.088-844-8731 Fax.088-844-8161

U R L : <http://www.lib.kochi-u.ac.jp/>

E-mail : lib@kochi-u.ac.jp